

平成6年度の小児看護学実習（3年生）が終了しました。

小児看護学実習は入院している子どもの看護を家族とともに実践を通し学びます。

入院している子どものつらさは、痛いこと、かゆいこと、熱があつて身のおき所なくだるく、思うように遊べない・動けないこと、それを思うように伝えられないこと。それに加え、見たことのない医療機器や知らない人に囲まれ、また、採血や点滴などしなければ良からなないけど痛みが伴うことです。それは人生初めての体験ですから、なぜ、何をされるのか、どうしていいか、わからないことだらけです。

そこで、看護学生は入院している子どもが少しでも心の準備ができ、治療検査に臨めるように様々な工夫をします。その子どもの理解力に合わせ、何をなぜするのか、どこでどうするのか、その時どうしていいのかを説明します。学生のそのような関わりにより入院している子どもは、頑張る力を取り戻し、達成感や自信を取り戻すこととなります。

今回、その時使ったグッズ・アイテム、頑張った賞など

実習で生まれた宝物

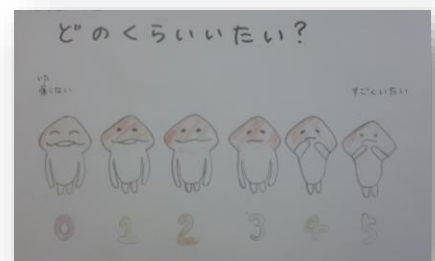
を紹介します。



治療上ベッドで過ごさなければいけないときも、ベッドで遊べることを考えます。時間が短く感じます。大好きな仮面ライダーを釣り竿でつりました。

上・下の写真は痛みスケールです。子どもの痛みの強さを理解し痛みの緩和ケアにつなげます。わかりやすいその子が関心を持てる痛みスケールを考えました。

入院中にお誕生日を迎えることもあります。バースデーカードはつらいことを頑張った証です。



大好きななめこのキャラクター



何をするか説明と同時に気をそらせるグッズも活用します。コアラさんの聴診器でモシモシします。コアラさんに興味が向きます。

アンパンマンファミリーはテッパン！欠かせないグッズです。これは歴代の先輩からの贈り物です。

